

令和５年度第１回洞爺湖町史編さん委員会会議録（概要）

日時 令和５年１１月２２日（水）１３時３０分

会場 洞爺湖町役場第１委員会室

出席委員	福島委員、北島委員、久保田委員、多田委員、村上委員、澤登委員 (２名欠席)
	下道町長
事務局	(企画財政課) 藤岡課長、吉本係長、安藤係員、遠藤専従員
傍聴人	０人

(開始13:31)

1. 開会

6名出席、2名欠席 公開の会議周知

2. 委嘱状交付

下道町長から各委員に委嘱状手交

3. 町長あいさつ

連綿と続いてきたこの町の足跡や歴史を途切れることなく記録としてまとめ、町民に広く周知するのは行政の大切な役割だと考えています。

この度、合併20周年を機に町史編さん業務に取り組むこととしました。洞爺湖町としての20年はもちろん、合併までの町村史の空白期間を埋めた洞爺湖町史編さんを想定しているところです。

委員の皆さまのご協力を得て、多くの町民に、幅広い年齢層に読んでほしい、読んでみたいと思う町史になることをお願いします。

4. 自己紹介

各委員及び事務局員

5. 正副委員長選出

委員長に佐伯委員、副委員長に福島委員を選出

(以降、佐伯委員長欠席のため、福島副委員長による議事進行)

6. 議事

議事第1号「洞爺湖町史編さん事業の概要について」

事務局より「編さんの目的」「町史の体裁等」「編さんにおける基本事項」「編さん体制」について、レジメ及び資料をもとに一括して説明。

・編さんの目的

合併20周年記念事業の一環として洞爺湖町史を編さん。

洞爺湖町の20年の歩みの記録にとどまらず、合併時までの町村史空白部分も洞爺湖町史に集約し、町民共有の財産として後世に伝えていくことを目的とする。

・町史の体裁等

発刊時期は令和11年度を予定。

体裁は全1巻、A5版で700ページ程度。300部を印刷、その他にPDFデータ。

頒布方法は今後検討。

・編さんにおける基本事項

合併後の洞爺湖町の20年の歩みを中心。昭和56年から平成15年にかけて発刊の物語虻田町史、昭和51年に発刊された洞爺村史の発刊以降の合併までの歩みも編さんに組み込む。

既刊の旧虻田町村史の加筆修正も検討する。

旧町村の地域性や特性を尊重し、行政史に偏らない幅広い分野を盛り込む。

生涯学習、学校教育の場で活用を視野に入れる。

・編さん体制

編さん委員会、事務局、委託業者での体制。

編さん委員会の業務は、編さん方針の検討及び策定、町史の構成、目次の検討策定、執筆要領の審議、進捗状況の確認検証、資料収集及び情報提供の協力、活用策の検討、合併20周年記念誌の状況確認となる。

委託業者は印刷製本だけでなく、編集計画の策定や原稿執筆も委託予定。プロポーザル方式で業者決定予定。

【質疑応答】

委員A： 合併20周年記念誌は町史と別に出すということか。

事務局： 合併20周年記念誌については、令和8年3月の20周年に間に合うように発行したい。町史とは別の形で出すということです。

委員A： この事務局で編集発行か。

事務局： 私どもの事務局の方で全て進め、印刷だけを業者に発注します。

委員B： 編さん委員会で合併記念誌の内容等について議論するのではなく、スケジュールの中で並行して進めるという理解でいいのか。

事務局： 企画等については編さん委員会の方には諮らない予定です。状況、内容の確認の協力をお願いしたい。

委員B： 町史発刊予定は令和11年だが、前倒しの考え方は持っているのか。

事務局： 11年度というのは正直わからないところがあります。業者から人口規模、町の規模ではこのぐらいのスパンになるのではという話を参考にしています。もう少し早くできるかなという気持ちはありますが、しっかりしたものを作りたいので、落ち着きながら進めたい。

議事第2号「今後のスケジュール予定について」

事務局よりレジメをもとに説明。

令和6年度にプロポーザル審査を経て委託業者を決定。上期に決定できるよう進めていきます。

令和7年度には構成目次を決定し、資料の収集、原稿執筆が始まります。

第1次の原稿執筆を1年から2年予定しています。半年くらい早くなる可能性もあります。

第2次の原稿の執筆が9年度の上期から大体1年半で、その期間で原稿を確定していきます。

編さんの対象となるのは令和9年度までの内容ですが、状況に合わせて対応していきます。

令和11年度には活用策の検討をお願いしたい。

【質疑応答】 なし

7. その他

次の委員会の開催日は令和6年2月を予定。

8. 閉会

(終了14:20)

<視察> 入江・高砂貝塚館、虻田郷土資料館

令和５年度 第１回洞爺湖町史編さん委員会

日 時 令和５年１１月２２日（水）１３時３０分
場 所 洞爺湖町役場 第１委員会室

<次 第>

１．開 会

２．委嘱状交付

３．町長あいさつ

４．委員紹介

資料１ … 編さん委員会委員名簿

５．正副委員長選出

資料２ … 洞爺湖町史編さん委員会設置要綱

６．議事

第１号 洞爺湖町史編さん事業の概要について

- ・ 編さんの目的
- ・ 町史の体裁等
- ・ 編さんにおける基本事項
- ・ 編さん体制

第２号 今後のスケジュール予定について

７．その他

８．閉 会

<視 察> 入江高砂貝塚館、虻田郷土資料館

議事第 1 号 洞爺湖町史編さん事業の概要について

○編さんの目的

令和 8 年 3 月に迎える合併 20 周年記念事業の一環として「洞爺湖町史」を編さんするものです。

洞爺湖町 20 年の歩みを整理・記録し、また、既刊の「物語虻田町史」及び「洞爺村史」の発行後から合併時までの町村史空白期間の変遷をまとめ、「洞爺湖町史」に集約することにより、町民共有の財産として後世に伝えていくことを目的とします。

(参考)

発 刊 年 月	町 村 史 名
大正 8 年 (1919) 7 月	虻田村史
昭和 37 年 (1962) 5 月	虻田町史
昭和 51 年 (1976) 10 月	洞爺村史
昭和 56 年 (1981) 4 月	物語虻田町史第 2 巻 江戸時代編
昭和 58 年 (1983) 3 月	同第 5 巻 洞爺湖温泉発展史
昭和 61 年 (1986) 5 月	同第 4 巻 産業編
平成 13 年 (2001) 5 月	同第 3 巻 教育文化編
平成 14 年 (2002) 2 月	別巻 2000 年有珠山噴火 その記録と教訓
平成 15 年 (2003) 7 月	同第 1 巻 行政編・資料編

資料 3…虻田町史・洞爺村史編さん年表

資料 4…「物語虻田町史」及び「洞爺村史」の主な内容

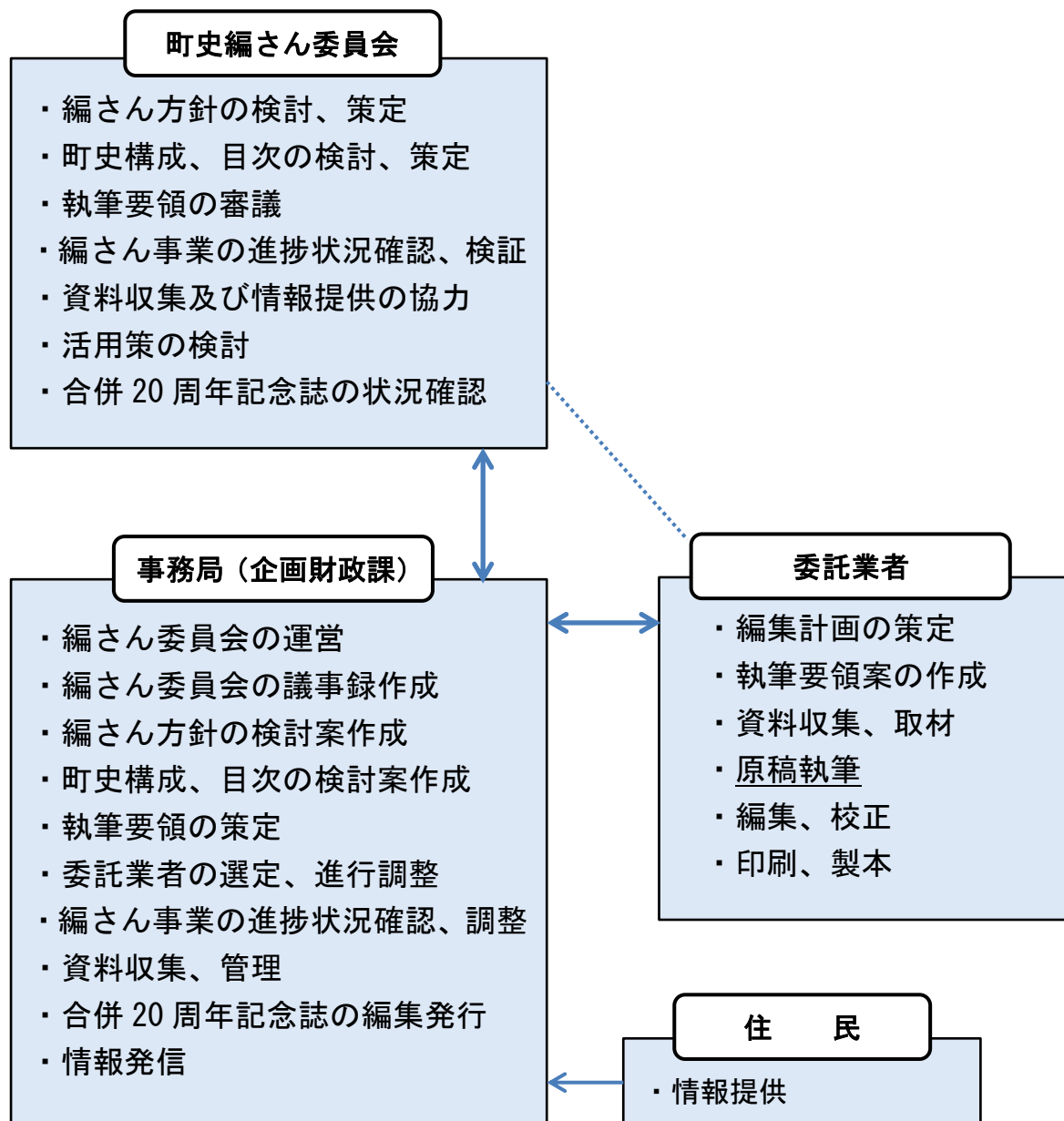
○町史の体裁等

- ・ 発刊時期 令和 11 年 (2029) 度
(編さん期間 令和 5 年 (2023) 度～令和 11 年 (2029) 度)
- ・ 体 裁 全 1 巻 A 5 版 700 ページ程度
300 部 PDF データ (ページ検索可)
- ・ 頒布方法 今後検討

○編さんにおける基本事項

- ・ 合併後の洞爺湖町の歩み及び前虻田町史・洞爺村史以降から合併までの歩みを編さん対象とします。
- ・ 既刊の旧町村史の加筆・修正についても検討します。
- ・ 編さんに当たっては、旧町村の地域性や特性を尊重するとともに、行政史に偏らない幅広い分野を盛り込むものとします。
- ・ 生涯学習・学校教育での活用を視野に入れた編さんとしてします。

○編さん体制



議事第2号 今後のスケジュール予定について

		洞爺湖町史	編さん委員会	合併記念誌 (事務局)
令和5年度 (2023)				
	下期	体制づくり 資料収集、整理	(編さん委員会発足) ・編さん方針決定	資料収集、整理
令和6年度 (2024)	上期		・プロポーザル審査	資料収集、整理 年表作成 編集方針決定
	下期	(委託業者決定) 資料収集、取材	・構成、目次の検討 ・執筆要領決定	取材、執筆 外部作業調整依頼
令和7年度 (2025) R8.3.27 20周年	上期		・構成、目次の決定	取材、執筆 編集、校正 原稿確定
	下期	1次原稿執筆	・進捗状況確認 ・校閲 ・基本方針との整合 性審査	最終チェック 印刷製本 発行
令和8年度 (2026)	上期			
	下期			
令和9年度 (2027)	上期	中間報告		
	下期	2次原稿執筆	・進捗状況確認 ・校閲	
令和10年度 (2028)	上期			
	下期	原稿確定		
令和11年度 (2029) R12.3.末	上期	初稿ゲラ	活用策の検討 最終チェック	
	下期	校了 印刷製本 発行	活用策検討	

洞爺湖町史編さん委員会委員名簿

(敬称略)

氏 名	住 所	紹介団体	備 考
高清水幸夫	浜 町	いぶり噴火湾漁業協同組合	
福島 良一	本 町	洞爺湖町商工会	
佐伯 昌彦	洞爺町	とうや湖農業協同組合	
北島 良人	洞爺湖温泉町	洞爺湖温泉観光協会	
久保田章子	洞爺町	洞爺まちづくり観光協会	
多田 康之	本 町	虻田郷土研究会	
村上 正弘	洞爺町	公募委員	
澤登 勝義	高砂町	公募委員	

任期：令和5年11月22日から令和7年11月21日まで

<事務局>

企 画 財 政 課	藤岡 孝弘	課 長
	吉本 大樹	広報統計係長
	安藤 夕陽	広報統計係
	遠藤 秀男	町史専従員

洞爺湖町史編さん委員会設置要綱

(目的)

第 1 条 町村合併で洞爺湖町が誕生して令和 8 年 3 月で 20 周年を迎えるにあたり、自然や歴史、産業、文化等に関する町の歩みをあらためて記録し、後世に伝える町民共有の財産として洞爺湖町史を編さんすることを目的として、洞爺湖町史編さん委員会（以下「編さん委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第 2 条 委員会は、前条の目的を達成させるため、次の業務を行う。

- (1) 町史編さん及び発刊の計画等に関すること。
- (2) 町史の編集及び執筆の状況確認に関すること。
- (3) 町史編さんに必要な資料の収集、管理、保存及び調査に関すること。
- (4) その他、町史編さん及び関連事業の推進を図る上で必要とされる事項。

(組織)

第 3 条 編さん委員会は、洞爺湖町、公共団体、産業経済団体、学識経験者及び公募等による者から 8 人以内をもって構成する。

- 2 前項の委員は、町長が委嘱する。
- 3 委員の任期は 2 年とし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。ただし、再任を妨げない。
- 4 町長は、特別の事由があるときは、任期中であっても委員を解嘱することができる。

(委員長及び副委員長)

第4条 編さん委員会に委員長及び副委員長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、編さん委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 編さん委員会は、委員長が招集し、会議の議長となる。

2 編さん委員会は、委員の過半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。

3 編さん委員会は、必要があると認めたときは、委員以外の者に会議への出席を求め、その意見若しくは説明を聴き、又は必要な資料の提出を求めることができる。

(報酬・費用弁償等)

第6条 委員には編さん委員会への出席に応じ、報酬及び費用弁償に相当する額を支給する。

2 前項に規定する報酬及び費用弁償に相当する額の支給等については、洞爺湖町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例（平成18年洞爺湖町条例第30号）に準じて支給する。

附 則

(施行期日)

1 この訓令は、公布の日から施行する。

(招集の特例)

2 この訓令の施行の日以後最初に開かれる会議は、第5条第1項の規定にかかわらず、町長が招集する。

資料 3

虻田町史・洞爺村史編さん年表

① 虻田村誌

年	町史編纂に関わる出来事
大正 8 年 7 月 (1919)	虻田村誌発行

② 虻田町史 虻田町開基 80 周年記念 … 明治 15 年 (1882) 虻田郡各村戸長役場設置

年	町史編纂に関わる出来事
昭和 24 年 (1949)	虻田町史編纂の方針決定 虻田町史編纂の担当者として元虻田尋常高等小学校長白井柳治郎を委嘱
昭和 25 年 (1950)	虻田町史編纂委員会設立
昭和 35 年 1 月 (1960)	虻田町史完結を急ぎ、全道各地の市町村史を手がけている河野広道、更科源蔵、渡辺茂、富樫曾一郎に町史編纂を委嘱
昭和 35 年 6 月	教育委員であった谷山雄蔵を事務嘱託に委嘱
昭和 37 年 5 月 (1962)	虻田町史発行

③ 洞爺村史 洞爺村開基 90 周年記念 … 明治 20 年 (1887) 香川県からの集団移住

年	町史編纂に関わる出来事
昭和 46 年 (1971)	安住尚志が洞爺村史の執筆を開始(安住が資料を集め始めたのは昭和 36 年頃)
昭和 49 年 (1974)	公民館の一室を借りて本格的に執筆
昭和 51 年 10 月 (1976)	洞爺村史発行

④ 物語虻田町史 全 6 巻 (当初) 虻田町開基 100 年記念 … 昭和 57 年 (1982)

(変更) 開基 180 年・戸長役場設置 100 年記念

寛政 12 年 (1800) 和人定住 (有珠虻田牧場 村田卯五郎) を開基

※先住民族アイヌの定住開始を証明することが困難

昭和 55 年 (1980) 10 月 記念式典

年	町史編纂に関わる出来事
昭和 53 年 6 月 (1978)	町長 (岡村) は洞爺村史執筆者の安住尚志に虻田町史執筆を要請し、町史編纂室を開設 町史編纂を側面から援助する「虻田の歴史を考える会 (会長宮田栄一、副会长白井信男、事務局長勝然和彦)」を設立

昭和 56 年 4 月 (1981)	第 2 巻 江戸時代編発行
昭和 58 年 3 月 (1983)	第 5 巻 洞爺湖温泉発展史発行
昭和 61 年 5 月 (1986)	第 4 巻 産業編発行
昭和 62 年頃 (1987)	執筆者安住尚志が病気のため執筆ができなくなる
平成 2 年 12 月 (1990)	「虻田の歴史を考える会」が活動休止
平成 10 年 6 月 (1998)	町長（長崎）は安住執筆の「物語虻田町史」を完結したいと考え、新しいスタッフを招集することを決定
平成 11 年 7 月 (1999)	休止していた「虻田の歴史を考える会」は総会を開き、町史編纂事業をサポートすることを決定
平成 11 年 9 月	町は 10 名の町史編集委員を委嘱して町史編集委員会を設置 執筆担当者として三瓶修、白井昭典、佐々木敬の 3 名に常勤の嘱託発令
平成 12 年 3 月 (2000)	2000 年有珠山噴火の前兆地震が始まり、執筆作業中止 ※3 月 31 日 有珠山噴火
平成 12 年 6 月	町史編集委員会が「噴火編」の必要性を提起し、町史別巻として発刊することを決定
平成 12 年 7 月	編集作業再開 「みずうみ読書の家」所長であった亀田彦一が執筆メンバーに加わる
平成 13 年 5 月 (2001)	第 3 巻 教育文化編発行
平成 14 年 2 月 (2002)	別 巻 2000 年有珠山噴火 その記録と教訓発行
平成 15 年 7 月 (2003)	第 1 巻 行政編・資料編発行

「物語虻田町史」及び「洞爺村史」の主な内容

第一巻 行政編・資料編 A5版763頁 平成15年(2003)発刊

第1章 虻田町の自然とアイヌの人たち(114頁)

自然、概要、先史時代、地名、アイヌの生活と文化

第2章 住民の歩みと行政の営み(447頁)

- ①開拓黎明期(53頁) 明治元(1868)年から明治30年(1897)
- ②開拓充実期(74頁) 明治31年から昭和2年(1927)
- ③発展期(116頁) 昭和3年から昭和28年(1953)
- ④飛躍期(102頁) 昭和29年から昭和52年(1977)
- ⑤成熟期(105頁) 昭和53年から平成12年(2000)

資料編(185頁) 年表…平成12年(2000)まで 公職者名簿…平成14年(2002)まで

第二巻 江戸時代編 A5版362頁 昭和56年(1981)発刊

第1章 松前藩政以前(48頁) ～慶長9年(1604)

第2章 松前藩政時代(46頁) ～寛政11年(1799)

第3章 幕府直轄時代(128頁) ～文政4年(1821)

第4章 松前藩復領時代(42頁) ～安政2年(1855)

第5章 幕府再直轄時代(78頁) ～慶応3年(1867)

第6章 江戸幕府の終幕

資料(10頁) 年表、参考文献

第三巻 教育文化編 A5版642頁 平成13年(2001)発刊

第1章 アイヌ教育(48頁)

第2章 教育と学校(188頁)

- ①各学校の沿革と活動 ②廃校になった学校
- ③保育所と幼稚園 ④近隣の高等学校など

第3章 社会教育(138頁)

- ①社会教育の推移 ②町内文化団体等の変遷と現況
- ③町内体育活動の変遷と現況 ④町内の文化・体育施設

第4章 あぶたの開拓と神社・寺院など(112頁)

第5章 文化財と伝承芸能(85頁)

第6章 文学・芸術・芸能(71頁)

第四巻 産業編 A5版393頁 昭和61年(1986)発刊

- 第1章 農業(162頁) 開拓前史、開拓～戦後、農業組合
- 第2章 漁業(76頁) 開拓史時代、明治～戦後、漁業組合、ホタテ養殖、漁港整備
- 第3章 鉱業(26頁) 虻田鉱山の消長
- 第4章 商業(42頁) 商業の萌芽、戦前～戦後、商工会
- 第5章 工業(65頁) 亜麻製線、戦前～戦後、現況
- 資料 年表(15頁) 明治元年(1868)～昭和59年(1984)

第五巻 洞爺湖温泉発展史編 A5版428頁 昭和58年(1983)発刊

- 第1章 洞爺湖への招待(32頁) 明治期の洞爺湖紹介文 戦後の洞爺湖案内
- 第2章 洞爺カルデラ湖の誕生(32頁) 洞爺カルデラ、中島誕生、中島の生物
- 第3章 有珠山活動と噴火の歴史(56頁) 慶長噴火～昭和新山噴火
- 第4章 1977年有珠山噴火(23頁) 噴火、避難、泥流、有珠新山
- 第5章 洞爺湖の伝説を尋ねて(21頁)
- 第6章 洞爺湖周辺の開拓(20頁) 橋口文蔵、月浦加藤農場
- 第7章 洞爺湖霊場の建設の夢と現実(47頁) 円空、三十三観音堂、中島弁財天
- 第8章 洞爺湖地名の旅(18頁)
- 第9章 温泉の発見と板谷順助の登場(44頁) 温泉発見と旅館、電鉄、バスの変遷
- 第10章 温泉街の戦後復興(56頁) 国立公園指定、遊覧船、利用組合、観光協会
- 第11章 洞爺湖ひめます物語と水質汚染(24頁) ひめます放流、漁協、臨湖実験所
- 第12章 洞爺湖文学散歩(28頁)
- 第13章 洞爺湖観光の未来像(11頁) 岡村正吉…文
- 資料 洞爺湖観光年表(10頁) 慶長16年(1611)～昭和57年(1982)

別巻 2000年有珠山噴火その記録と教訓

A5版(横書)688頁 平成14年(2002)発刊

- 第1章 2000年有珠山噴火の総括(14頁)
- 第2章 ドキュメント 156日にわたるたたかひの軌跡(266頁)
 - 記録と証言(3/28～5/1) 役場庁舎復帰以降の記録(5/2～8/31)
- 第3章 全町避難と全国からの支援
 - ①犠牲者ゼロの避難と避難所生活(36頁) 全町避難、広域避難、支援の手
 - ②国や道の取り組み(65頁)
 - 対策本部、国、道、自衛隊、警察、消防、海上保安庁、予知連絡会
 - ③インフラ等の再建(30頁) 交通機関、ライフライン、電話、金融
 - ④寄せられた善意(31頁) 災害弱者、ボランティア、ペット対策
 - ⑤道・町そして町議会の努力(37頁)

⑥苦境の中の町民や産業団体（34 ㌔）

幼稚園、菓子工場の被災、観光協会、各産業団体

⑦教育委員会と学校・保育所（53 ㌔）

安全、教室の確保、教育復興、子どもたちの頑張り

⑧復興は住民が主役に、活発な住民団体の動き（13 ㌔）

再生住民の会、ワークショップ、ガイドの会

⑨災害に強い活力ある町づくりのために（43 ㌔）

報道、被害状況、復興計画

第4章 わたしたちの洞爺湖と有珠山（61 ㌔）

①有珠火山群と洞爺カルデラ生成

②有珠山の噴火史

③防災の基本知識 火山の恩恵と災害、防災と減災、予知の現状と観光

物語虻田町史 在庫状況及び販売価格

タイトル	在庫	販売価格
第一巻 行政編・資料編	あり	2,000 円
第二巻 江戸時代編	あり	2,000 円
第三巻 教育文化編	あり	2,000 円
第四巻 産業編	あり	2,000 円
第五巻 洞爺湖温泉発展史編	あり	2,000 円
別 巻 2000 年有珠山噴火 その記録と教訓	あり	2,000 円

第 1 章	自然 (56 頁)
	洞爺湖と有珠山、後方羊蹄日誌、羊蹄山、洞爺の名木
第 2 章	先史より黎明へ (68 頁)
	先史時代、アイヌ文化・地名考
第 3 章	移住開拓史 (98 頁)
	香川県移住団、北海孤児院、京極農場、洞爺のいしぶみ
第 4 章	村の誕生と優良町村 (66 頁)
	北海道開拓使、虻田村成立、選挙の変遷、部落会、洞爺村誕生、優良町村
第 5 章	洞爺の神仏たち (54 頁)
	円空と洞爺観音像、洞爺湖畔の神仏、神社、寺院
第 6 章	学校と社会教育 (84 頁)
	学校沿革、神楽と獅子舞、社会教育の変遷、青年団体、婦人団体
第 7 章	道路と交通の移り変わり (38 頁)
	国道・道道・村道の変遷、湖上運輸と遊覧船、バス、郵政
第 8 章	村と農業 (76 頁)
	農会から農協までの変遷、自作農創設、亜麻耕作、いも栽培、こめ作り、 村営牧場、農作物の推移
第 9 章	詩歌にうたわれた洞爺 (26 頁)
	村の文芸史
第 10 章	村民のしあわせのために (62 頁)
	姫鱒盛衰史、診療所、洞爺鉱山、戦争と洞爺、戦後の行政
資料編	(238 頁)
	人口と産業構造、農業の現状、各学校沿革、公職者名簿、財政、住居地図

洞爺村史 在庫状況及び販売価格

タイトル	在庫	販売価格
洞爺村史	なし	—

※ 「章」「見出し」等は町村史原文に限らず、事務局で変更しているものがあります。
掲載内容区分は主なものです。